

26 回生 思考廻廊パネルに込めた思い (2012 年春)

高良山下の学園で過ごした我ら同窓生には、校舎の姿かたちが変わろうとも、永遠に変わらぬ高良山の姿が、どこにしようと等しく見えていると思います。

附設在校時の苦勞や喜びや青春の悩みをすべて大きな懐で見つめ育ててくれた母なる御山を思うと、当時が一瞬で蘇ってきます、、、

真直ぐに伸びる 優しき坂の上には
堂々と佇む 道標なる白き学び舎の幻影
げにここは 永遠に安らかなる 我らが産土
夢を追い 遙々集いし幼き君が いずれ還らん故郷

遠く永き旅の途中 絶えず我に聞こゆるは
若き日の逞しき友の歓声 コーラスの蒼い歌声
竹林の向こう 授業に笑い誘う 空渡るジャンの響き
思考廻廊の彼方に 弾み来る希望の足音 迷う青春の叫び

芝斜面を駆け降り テニスコートを廻り
風そよぎ渡る憩いの森へ 光溢れるグラウンドへ
笑顔で疲れ果てたる君と 球技大会や体育祭の夕べの宴
朝な夕な 悩める時を忘れ 汗を額に 共に学び駆け巡る

眼を閉じれば 直ぐに心は 故郷の空へ
懐かしき友や 先輩らの姿 心優しき恩師の顔が
時空を越え 遠き旅より還るに 忘れ得ぬ あの童心
ああ 高良(たから)の山よ 永遠にその懐深く 我らを抱き育め

この思いを込めて、最後の一行をパネルに刻みました。
高良山の奥に連なる山々も忠実に写し込み、我らの心のパネルに優しく浮かべています。

